

今号から「関係詞」(relativo)とその用法を扱います。関係詞を含んだ文を「関係節」と言います。関係節は形容詞と同じ働きをするので「形容詞節」とも呼ばれます。例えば, "página que sigue"(続くページ)と "página siguiente"(次のページ)はほぼ同じ意味ですが, 形容詞 siguienteと同じ役割を関係節 que sigueが担っています。関係詞の用法は非常に複雑です。網羅的に扱うことは不可能なので, 本号では中級者を想定して関係詞の色々な側面を紹介することにします。

形式的には次の8つです。

関係代名詞: (el) que, quien, el cual, cuyo, cuanto

関係副詞: donde, cuando, como

疑問詞と関係詞は密接な関係があります。基本的にアクセント記号を付けて強く発音すれば疑問詞(感嘆詞), アクセント記号なしで弱く発音すれば関係詞です。ただ, el cualは関係詞の場合でも強く発音されます(ただし記号は付きません)。

関係詞は日本語話者にとって難関の1つです。理解しにくいのは日本語に相当する文法形式がないからです。あえて近いものを挙げれば, 動詞の連体形です。例えば, 「話す」の連体形は「話す〜」です(現代日本語では終止形と連体形は同じ形)。この語形を「人」の前に接続すると「話す人」, つまり "persona que habla" となります。

このように, 本来2つの文を1つの文にまとめるのが関係詞の機能です。例を使ってその基本的仕組みを見てみましょう。

Los turistas esperan el autobús. 観光客はバスを待っている。
Los turistas van al museo. 観光客は美術館に行く。

これらの文で共通しているのはそれぞれの主語の los turistasです。どちらかを関係代名詞に代えて los turistasに言及させます(この los turistasが先行詞antecedenteと呼ばれます)。どちらを関係詞に代えるかによって以下のように2種類の複文ができます。

Los turistas que esperan el autobús van al museo.
バスを待っている観光客は美術館へ行く。
Los turistas que van al museo esperan el autobús.
美術館に行く観光客はバスを待っている。

ここで使った関係代名詞 queは, 最も基本的で幅広く使われるものです。先行詞として《物》でも《人》でも受けることができます。

一方, quienは《人》(または擬人化されたもの)しか先行詞とすることができません。

La compañera con quien trabajo en la oficina es muy simpática.
私がオフィスと一緒に働いている同僚はとても感じがよい人だ。

しかし, 学習者の素朴な疑問として「なぜ queは人にも物にも使うのに quienは人だけなのか」というものがあるでしょう。「もし, queは物, quienは人とはっきり分かれていればすっきりするのに」と。

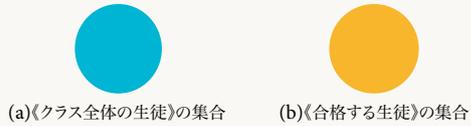
その理由を考えてみましょう。queと quienの語源ですが, ラテン語の QUI(男性形, 女性形 QUAE, 中性形 QUOD)に由来します。QUIの対格形が QUEMでしたが, Eが二重母音になり -Mが -nに変わると quienになります。つまり, もともと同じ語の異なった変化形に過ぎません。両方とも人にも物にも使いました。後にスペイン語では, quienの方は人専用となりましたが, queは昔のままでも物でも受けるということで現在に至ります。一方, 疑問詞としてはこの分業が完成し, ¿qué?は「何?」, ¿quién?は「誰?」となりました。

関係節の前にコンマがあるかないかで2つの用法があります。あるクラスの生徒たちについて述べている以下の文を例として考えましょう。

Los alumnos que estudian mucho aprobarán.
よく勉強する生徒たちは合格するだろう。 →制限用法
Los alumnos, que estudian mucho, aprobarán.
生徒たちは——彼らはよく勉強するのだが——合格するだろう。 →説明用法

前者を「制限用法」(uso especificativo), 後者を「説明用法」(uso explicativo)と呼びます。用語は他に, 前者を「限定用法」等, 後者を「非制限用法」, 「継続用法」等と様々あります。

それでは意味の違いを理解するために集合の図形を使って考えてみましょう。以下のように (a)と (b)2つの集合があります。



これらの集合はどのように重なるのでしょうか。それぞれの用法によって (i)と (ii)の場合があります。



(i)では意味が制限されています。一方 (ii)では追加説明がされていますが, 制限はされていません。つまり, 前者では「一部の生徒のみが合格」し, 後者では「全員が合格」することになります。

さて, 基本的な関係代名詞 queですが, 定冠詞を伴うことができます。

Ayer me visitó la hermana de Pedro, a la que había conocido antes.
昨夜ペドロの妹が訪ねてきたが, 以前に知り合っていた。

定冠詞のおかげで関係詞は Pedroではなく la hermanaを指していることがわかります。このように定冠詞付きの queはより文意をはっきりさせることができ, 前置詞を伴うときによく使われます。

ただし, 前置詞が a, de, en, conで制限用法の場合は定冠詞を省略することができます。

Esta es la pluma con (la) que se firmó ese tratado histórico.
これがその歴史的な条約が署名されたペンだ。

porも省略される場合がありますが, 省略しない方が望ましいとされています。なぜなら por queは理由の接続詞 porque〜(〜なので)と紛らわしいからです。

Desconozco la razón por la que ella no apareció.
彼女が現れなかった理由はわからない。

今号では関係詞の基本的仕組みと (el) que, quienを扱いましたが, 次号ではその他の用法に進む予定です。



仲井 邦佳 / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同学社)などがある。